

楊枝
名稱

楊枝製作

楊枝寸法

を入れ、手巾を添て奉る、其後白粥を供ふ、未明に至り齋飯調菜をよく煮、念を入れて鹽梅し、輪番の僧に供し奉る、四季に衣服をも奉る也、されば俗間に早朝に起て手水し口漱をウガイといふは卯粥なり、事は佛氏に出るとて、瑯琊代醉編卷二十二、周朴唐末詩人、寓於閩中僧寺、假丈室

以居、不飲酒、茹葷、塊然獨處、諸僧晨粥卯食、朴亦携巾盂、所諸僧中畢飯而退、率以為常トアルヲ例證トス、鼎川朝謂フ、此說餘リ學問過ギタル考ナリ、烏鬼ヲ使フモノ、鵜ヲシテ魚ヲ捕ラシメ、咽

喉ヨリ下ヘ下サズシテ吐出セシム、今手水スルモノ湯水ニ口ヲ漱ギ咽喉ヨリ下ニ下サズシテ吐出スル、恰モ鵜飼ノ如クナレバトテ、鵜飼トイフ說ノ簡明朴實ナルニ如ズ、

〔女用訓蒙圖彙〕同御厨子黒棚かざりの事

同中の棚、略、中左は、略、中鵜飼、天目二つそえてかざるべし、

〔倭名類聚抄〕楊枝深浴具、楊枝温室經云、七物其六曰、楊枝、

〔伊呂波字類抄〕楊枝雜物、楊枝ヤウジ

〔下學集〕楊枝器財、楊枝梵網之疏、齒木也、

〔饅頭屋本節用集〕楊枝財寶、楊枝ヤウジ

〔大和本草〕黒モジ雜木、山中ニ生ズ、略、中皮黒クシテ香氣アリ、故ニ是ヲ用テヤウジ牙枝トス、皮ヲツケ

用ユ、

〔雍州府志〕楊枝土産、所々劉之、其内下栗田口猿屋爲本、百本或五十本、入桐宮並紙袋、贈遠方、今自

四條京極西至祇園町、特多、其木自河内國玉串村出者爲良、豐前國立石之楊枝木爲絶品、各在京師、

立石村、堂上萩原家領地也、

〔槩囊抄〕用楊枝功能并寸法アリト云、如何、略、中

次寸法事、三寸ヲ最小トシ、一尺二寸ヲ最大トス、其中間ハ可任意歟、諸經要集云、僧祇律云、極長十